

# 小田原市デジタル田園都市構想総合戦略のKPI達成状況

No.	位置づけ	目標・KPI	単位	方向性	単年・累計	基準年	基準値	【目標】R9	【実績】R5	評価	実績値の考察	補足説明等	所管課
<b>【基本目標1】 稼ぐ地域と安定した雇用をつくる</b>													
1	KPI:1-①	経営相談窓口の相談件数	件	↑	単年	令和2年度	210	260	241	B	相談窓口は、令和4年度までの週3日開設から令和5年度に週2日開設とし、1日当たりの相談件数を増加させ、効率的な対応を図っていますが、開設日減少が影響していると考えられます。	令和4年度:2.1件/日 →令和5年度2.5件/日	産業政策課
2	KPI:1-②	立地企業の市民雇用数	人	↑	累計	令和2年度	92	295	102	D	進出企業の立地が令和6年度以降に遅れたため、それに伴う市民雇用の実績がありませんでした。今後は、企業の立地が続くことから実績の増加が見込まれます。	令和6年度には5件(新規立地2件、拡大再投資3件)予定されており、それに伴い市民雇用が見込まれます。	産業政策課
3	KPI:1-②	テレワークやワーケーションができる場所 100箇所	箇所	↑	累計	令和2年度	11	70	20	C	テレワークやワーケーションといった新しい働き方が一定程度定着してきていますが、コロナ禍を経て新しい働き方に対応できる職種などの傾向も出てきていることから、場としての増加ペースが減速してきていると考えられます。		産業政策課
4	KPI:1-③	農業算出額	億円	↑	単年	令和元年度	38.1	38.7	-	-	※実績値把握のための農林水産省データが公表1年遅れのため「-」としています		農政課
5	KPI:1-③	小田原産木材の流通量	m <sup>3</sup>	↑	単年	令和2年度	4,200	5,500	5,988	S	水源環境保全税を原資とした森林整備事業が着実に進み、森林組合や県事業による素材生産量が増加したことや、小田原産木材の需要が拡大していること等により、目標値を上回る実績となったと考えられます。		農政課
6	KPI:1-③	小田原漁港の水揚げ量	t	↑	単年	令和2年度	2,816	2,954	3,159	S	水揚げ量は海洋環境の影響を受けやすく、その年により増減に幅がありますが、9月・10月は前年比で7割を大きく上回り、11月も豊漁となったことが大きく影響し、目標値を大幅に上回る実績となりました。		水産海浜課
<b>【基本目標2】 魅力を発信し、人の流れをつくる</b>													
7	KPI:2-①	移住相談件数	件	↑	単年	令和3年度	368	400	444	S	「オダワラボ」を中心とした継続的な発信と、移住体感イベントなどの実施により、より多くの人に「小田原暮らし」の魅力が伝わったことで、より多くの相談を受けるようになりました。		企画政策課
8	KPI:2-②	小田原駅周辺流動客数	人	↑	単年	令和2年度	111,838	129,920	117,362	C	新型コロナウイルス感染症の収束により数値は回復傾向にありますが、円安、物価高騰等のマイナス要因が上昇率を緩やかにしています。		商業振興課

## 小田原市デジタル田園都市構想総合戦略のKPI達成状況

No.	位置づけ	目標・KPI	単位	方向性	単年・累計	基準年	基準値	【目標】R9	【実績】R5	評価	実績値の考察	補足説明等	所管課
<b>【基本目標3】子どもを産み育てやすい環境をつくる</b>													
9	KPI:3-①	児童相談対応件数	件	↑	単年	令和2年度	299	582	538	A	令和2年度の子ども若者教育支援センター設置による相談場所の集約に加え、令和5年度から母子保健部門が統合され、相談件数が更に増加しています。		子ども若者支援課
10	KPI:3-②	待機児童数	人	↓	単年	令和3年度	5	0	9	D	入所申込の増加と、保育士不足などで受入体制が十分に確保できない状況が重なり、例年より入所できない児童が増加しました。	【申込み数】 令和3年比60人増 令和4年比65人増	保育課
11	KPI:3-③	国語の授業がわかると感じている児童生徒の割合	%	↑	単年	令和3年度	81.2	90.0	85.6	C	35人学級の拡大や少人数指導スタッフの配置によるきめ細かな学習指導、ICTを活用した学習の推進等の取組が数値の向上につながったものと考えられます。		教育指導課
12	KPI:3-③	算数・数学の授業がわかると感じている児童生徒の割合	%	↑	単年	令和3年度	77.9	89.0	77.1	D	基礎から積み上げることが重要な教科であることから急激な向上を見込むことは難しいですが、きめ細かな学習指導やICTを活用した学習等の取組を継続しつつ、3年間のモデル校での実践を踏まえ令和6年度から全校展開を開始したステップアップ調査の調査結果をエビデンスとし、個に応じた学習指導や授業改善につなげていく等、児童生徒の学力の向上を目指していきます。		教育指導課
<b>【基本目標4】活力にあふれ、住み続けたいまちをつくる</b>													
13	KPI:4-①	24時間365日安心して医療が受けられる体制が整っていると思う市民の割合	%	↑	単年	令和3年度	62.3	77.7	62.0	D	医療関係団体等と様々な課題等について情報を共有し意見交換を行っています。また具体的な取組まで着手できていません。今後も関係団体と連携を図りながら地域医療の充実につなげていくことが市民の安心できる医療体制につながるものと考えます。また、こうした様々な取組が市民にしっかりと伝えきれていないことも目標値に届かない要因と考えています。		健康づくり課
14	KPI:4-①	多機関連携による支援件数	件	↑	単年	令和2年度	5	20	3	D	目標値は、支援会議又は重層的支援会議で取り扱った事案の件数に限っているため、数値は少ないですが、福祉まるごと相談(包括的支援・多機関協働事業)においては、新規相談169件、継続相談1,889件に対応しています。	支援会議及び重層的支援会議は、社会福祉法に基づく会議体であり、複雑・複合化した課題を抱える家庭を支援するための情報共有や支援方針を検討するものです。	福祉政策課
15	KPI:4-①	脳血管疾患による死亡率(対人口10万人)	人	↓	単年	平成30年	101.5	88.9	-	-	※KPI実測値は令和3年の数値(98.8人)が最新です ※令和元年の数値(101.0人)、令和2年の数値(114.4人)と比較すると減少傾向です		健康づくり課

## 小田原市デジタル田園都市構想総合戦略のKPI達成状況

No.	位置づけ	目標・KPI	単位	方向性	単年・累計	基準年	基準値	【目標】R9	【実績】R5	評価	実績値の考察	補足説明等	所管課
16	KPI:4-②	小田原三の丸ホール来場者数	万人	↑	単年	-	-	50	32	B	令和5年度に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されましたが、多少の社会不安が残り、来場者が伸びなかったと考えられます。今後、ホールの設置目的であるまちのにぎわい創出を図る事業等をさらに検討していく必要があります。		文化政策課
17	KPI:4-②	住宅の耐震化率	%	↑	単年	令和2年度	90.0	96.2	91.6	C	旧耐震基準の木造住宅の居住者(所有者)は、高齢者が多く耐震改修費用も高額となるため、耐震化が進まない状況です。		建築指導課
18	KPI:4-②	市民学校卒業生・修了生の担い手実践活動人数	人	↑	累計	令和2年度	36	413	189	C	分野毎に偏りがあることや、若い世代の受講者が増加しないことが課題と捉えています。		生涯学習課
19	KPI:4-③	市内の再生可能エネルギー導入量	千kw	↑	単年	令和元年度	34	100	41	D	令和4年10月から国の財源活用などにより太陽光発電設備の導入補助を行い徐々に導入は進んでいますが、目標達成に向けては更なる取組が必要です。	※R5の実績はR5.12末時点のものです	ゼロカーボン推進課
20	KPI:4-③	SDGsパートナー登録者数	者	↑	累計	令和2年度	142	410	312	A	SDGsに関連する取組を行う企業・団体等が増え、市と共に普及啓発活動を進めたいなど、SDGsの輪が広がっていることが考えられます。		未来創造・若者課
21	KPI:4-③	電子申請システム取扱サービス数	件	↑	単年	令和2年度	20	555	312	B	電子申請を各所属で作成できるようになってから順調にサービス数が増えています。ただ、マイナポータルの電子申請で取り扱うものも増えてきているため、「すみ分け」を意識しながら取り組んでいきます。		デジタルイノベーション課

【評価の個数】

S	3	14.3%	38.1%
A	2	9.5%	
B	3	14.3%	
C	5	23.8%	52.4%
D	6	28.6%	
-	2	9.5%	
計	21	100%	

評価項目

S	既に目標を達成
A	概ね目標を達成
B	目標達成に向け順調に推移
C	やや目標達成困難
D	目標達成困難